

講壇点滴

神は人を分け隔てなさない

使徒言行録一〇章三四〜四八節

牧師 姜 涇 米

教会というのは、驚くべきことが起る所で、それは、教会に来ると病気が治るとか、悩みや苦しみが解決するというようなことではありません。それは、人が新しくなる、変えられるということです。

使徒言行録一〇章にも、人が新しくされた、という驚くべき出来事が語られています。その人は使徒ペトロです。ペトロは、既にイエス・キリストを信じる信者であり、その信仰を宣べ伝えている伝道者、教会の指導者です。しかしそのペトロが、教会の歩みの中で、新しく造り変えられたということをこの一〇章は語っているのです。彼がどのように新しくされたのかは一〇章の前半から分かります。ペトロはカイサリアという町に出かけて行って、ローマ帝国の軍隊の百人隊長コルネリウスという人とその一家に、キリストの福音を宣べ伝えたのです。

コルネリウスは異邦人です。旧約聖書の時代以来ユダヤ人は、自分たちは神様選ばれた神の民であるという自覚を持ち、それ以外の民、異邦人を汚れた存在として、できるだけ交際しなかったのです。

けれども彼は祈っている時に神様からの幻

による示しを受けました。食べてはいけない、と律法に命じられている汚れた動物たちが入った布が彼の前に出されて「これを屠って食べなさい」と神様がお命じになったのです。ペトロは「主よ、とんでもないことです。清くない物、汚れた物は一つ食べたことがありません」と言ってそれを拒もうとしました。するとさらに、「神が清めた物を、清くないなどと、あなたは言ってはならない」という声が聞こえたのです。

これは神様が、異邦人を汚れた者として避けるのではなく、福音を宣べ伝えよと命じておられるのだ、と知ったペトロは、コルネリウスの招きに応えてカイサリアに出かけました。このようにして、使徒ペトロによる異邦人伝道が始まったのです。これは、教会が公に異邦人を仲間として受け入れ、神様の救いがユダヤ人だけでなく異邦人にも与えられていることを認め、受け入れたということです。キリスト教が世界に広がり、今私たちがこの日本で、主イエス・キリストの福音にあずかり、神様の民として生きることができ、その第一歩であると言ってもよいのです。

教会が新しく歩み出す、伝道の新たな展開が起る。それは、教会に連なる者たちが、伝道をする者たちが、新しくされる、造り変えられるということを通して起ります。伝道は、人を神様に従う者へと造り変えようとするのではなく、まず自分が、神様のみ言葉に従う者へと造り変えられるということを通してなされていくのです

(一〇月一三日 共同礼拝)

第二主日(一〇月一三日) 共同礼拝

「神は分け隔てなさない」姜 涇米牧師

詩編 一三三・一

使徒言行録 一〇・三四〜四八

第三主日(一〇月二〇日) 共同礼拝

「巨大な恵みに生きる」高橋和人牧師

箴言 二六・一六

マタイ 二五・一四〜三〇

第四主日(一〇月二七日) 共同礼拝

「愛のわざ伝道」高橋和人牧師

詩編二二・二三〜三三

ペトロ一 一・二〇〜二五

一月講壇一覽

第一主日(一〇月三日) 共同礼拝

「裁きを信じて」高橋和人牧師

エゼキエル 三三・一〇〜二〇

マタイ 二五・三一〜四六

第二主日(一〇月一〇日) 共同礼拝

「不思議な献金」高橋和人牧師

マタイ 一七・二四〜二七

第三主日(一〇月一七日) 共同礼拝

「メシアの香り」高橋和人牧師

出エジプト 三〇・二三〜三〇

マタイ 二六・一〜一三

第四主日(一一月二四日) 共同礼拝

「聖霊が彼らの上にも」姜 涇米牧師

詩編 九六・一〜三

使徒言行録 一一・一〜一八